

早稲田大学 商学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	今年度の早稲田大の日本史の中では、全学部を通して商学部が一番難しかった。正誤問題が多いだけでなく、リード文を読解しながら考えて解かなければならない問題が多いため、解答に時間がかかっただろう。単なる暗記だけではなく、日本史を理解することの重要性がよくわかる出題であった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	古代の戦乱	「適当なものがなければ6をマークせよ」のせいで消去法がきかないところが難しい。問D・E・Iが難問。	やや難
2	承久の乱・応永の乱	問Cは決して簡単ではないが、14年前に教育学部で「秋田城介景盛」が安達氏であることが問われていた。他の大学ではめったに出ない問題である。	易
3	近世の鉄砲	空欄イには「鉄砲」が入るが、それを確定するためにはリード文をしっかりと読解する必要があった。ここに時間を取られてしまった人も多だろう。問A・C・Jを間違えた人は、早稲田の傾向をあまりに知らない証拠である。	標準
4	明治文化・近現代の銀行	商学部によく見られる、正解を2つ選ばせる正誤問題。もちろん、2つ正解して初めて得点となる。問E・G・Iが難問。	やや難
5	明治憲法体制・大正デモクラシー	問I・Jが難問。まぎらわしい社会運動の団体の名称は、正確に覚えておかなければならないことがわかっただろう。このレベルにとどまらず、もっと踏み込んだ学習をすべきである。	やや易
6	国家改造運動・占領政策の転換	問Eは難問だが2002年の政治経済学部では、「村の家」という作品名が問われていた。他には、問G・Iが難しかっただろう。	やや難

【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。